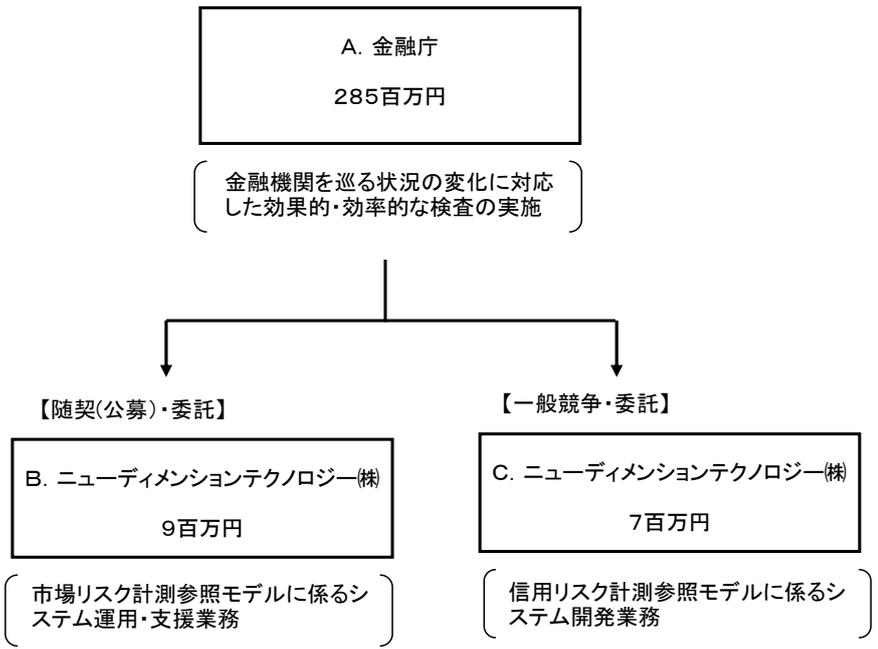


行政事業レビューシート (金融庁)

予算事業名	金融機関検査	事業開始年度	平成12年度	作成責任者		
担当部局庁	検査局	担当課室	総務課	佐々木 清隆		
会計区分	一般会計	上位政策	金融機能の安定の確保、円滑な金融等			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	銀行法第25条、保険業法第129条 等	関係する計 画、通知等	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年検査事務年度検査基本方針、検査基本計画(平成20年8月19日公表)[平成21年4月～6月期に係る計画] 平成21年検査事務年度検査基本方針、検査基本計画(平成21年8月7日公表)[平成21年7月～平成22年3月期に係る計画] 平成21年度金融庁政策評価実施計画 施策I-1-(2)金融機関を巡る状況の変化に対応した、効果的・効率的な検査の実施(平成21年3月31日) 			
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	銀行法等が求める金融機関の業務の健全性及び適切性の確保のため、立入検査の手法を中心に活用しつつ、各金融機関自身が構築した経営管理態勢、法令等遵守態勢、リスク管理態勢、金融円滑化管理態勢を検証して問題点を指摘するとともに、金融機関の認識を確認し、自主的な改善を促すこと。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	<p>毎検査事務年度に作成、公表される検査基本方針及び検査基本計画に基づき、金融機関を取り巻く内外の経済・金融環境の変化に留意しつつ、よりレベルの高い内部管理態勢の構築や適切なリスク管理態勢の下での円滑な金融仲介機能の発揮に資するよう、金融実態に応じた的確な金融検査を実施。</p> <p>21年度においては、ベター・レギュレーションを恒久的な検査運営指針として位置づけるとともに、①経営管理態勢の整備、②リスク管理態勢の整備、③円滑な金融仲介機能の発揮、④顧客保護・利用者利便の向上、を検査重点事項として検証を行ったほか、国際的な規制環境の変化に伴って、海外で事業展開している我が国金融機関に対する調査を実施し、海外当局とも緊密な連携を図った。</p>					
実施状況	<p>21年度においては、全国各地に所在する金融機関を対象に、銀行等(銀行持株会社を含む)については100件の検査を実施したほか、信用金庫・信用組合等の協同組織金融機関について158件、保険会社について17件、その他の金融機関について327件の検査をそれぞれ実施した。</p> <p>また、海外で事業展開している我が国金融機関に対しても必要な調査を実施し、海外当局とも緊密な連携を図った。</p>					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	393	344	341	353	370
	執行額	328	287	285		
	執行率	83.5%	83.4%	83.6%		
総事業費(執行ベース)	328	287	285			
自己点検	支出先・ 用途の把 握水準・ 状況	<p>金融機関検査経費に係る支出の大半は、検査業務を適切に遂行するうえで必要な旅費(検査先等への出張に必要な交通費、宿泊料等の経費にあてるために支給される費用)であり、証拠書類等を確認のうえ、旅費法に基づき適正に執行している。</p> <p>また、支出の一部に、リスク計測参照モデルに係るシステム開発・運用支援を業務委託している民間委託先への支出が存在するが、金融機関が保有するリスクの管理状況を的確に検証するためには必要不可欠なシステムに係る経費である。なお、当該委託先での用途は、システムの開発・運用に携わるシステム・エンジニアの件費となっており、当該委託先から再委託・再支出の事実認められていない。</p>				
	見直しの 余地	<p>金融機関検査経費に係る支出の大半は金融機関への立入検査時に発生する検査旅費であるが、今後も地方の金融機関を含めて金融円滑化のための検査等を適切に実施する必要があるため、そのための予算の確保は必要不可欠。</p> <p>また、システム開発・運用支援に係る業務委託についても、金融機関の保有するリスクが高度化・複雑化する中、そのリスク管理プロセスの適切性について検証・評価を行うために必要であり、そのための予算の確保は必要不可欠。</p>				
予算監視・ 効率化 の所見	<p>金融機関検査経費については、金融機関への立入検査時に発生する検査旅費が大半であり、21年度においては、地方の金融機関への検査が予定どおり実施できなかったことによる不用額が増加したものの、これは、主要行等に対する金融円滑化のための集中検査等に注力したためである。検査に必要な要員や期間は検査開始後に明らかになるものであり、経営管理態勢の整備、リスク管理態勢の整備、円滑な金融仲介機能の発揮等のため、適切な業務実施を担保する観点から必要な予算額の確保は重要。また、海外の本邦金融機関の拠点に対する調査体制の確保、効率的な検査実施のための検査環境の整備も必要不可欠。</p> <p>一方、予算の執行状況、内外の経済・金融環境の変化等を踏まえ、効率化を図れないか、今後、例えば、金融検査の対象の一層の重点化や外部機関との連携の確保等について検討すべきである。</p>					
補記						

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補足する)
(単位:百万円)



A.金融庁					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
旅 費	国内検査旅費、外国検査旅費等	257.6			
外部委託	ニューディメンションテクノロジー㈱ 市場リスク計測参照モデルに係るシステム運用・支援業務	9.1			
外部委託	ニューディメンションテクノロジー㈱ 信用リスク計測参照モデルに係るシステム開発業務	7.3			
物品購入費	パソコン、消耗品	7.3			
その他	委員手当、通信運搬費、研修受講費	3.8			
計		285.1	計		
B.ニューディメンションテクノロジー㈱					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
事業費	システム運用・保守業務	9.1			
計		9.1	計		
C.ニューディメンションテクノロジー㈱					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
事業費	システム開発業務	7.3			
計		7.3	計		
D. (Blank)					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計			計		

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につ
 いて記載する。
 使途と費目の
 双方で実情が
 分かるように記
 載)